

2017年6月29日

第13回全国労働金庫大会  
全国労働金庫協会・連合会理事長挨拶

第13回全国労働金庫大会の開催にあたり、主催者を代表し、一言、ご挨拶申し上げます。

本日ご臨席の皆様には、平素より労金の業務に対し、ひとかたならぬご高配をたまわっておりますことに、厚く御礼申し上げます。

本大会には、ご多忙の中、多数のご来賓の皆様にご臨席をたまわりました。連合・神津会長、金融庁・森長官、厚生労働省・二川事務次官、日本銀行・宮野谷理事、中央労福協・花井事務局長には、のちほどご挨拶をいただくこととなっております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、国内外の経済社会が不安定で不確実、不寛容とも言われる時代にあって、〈ろうきん〉が掲げる「働く人の夢と共感を創造する」、「共生社会の実現に寄与する」といった理念の持つ意義を、改めて再確認する 때가来ています。

私たちが日々、向き合う勤労者を取り巻く状況は、雇用者数の増加や失業率の低下、無期雇用への転換など、改善の傾向が見られるものの、その一方で非正規勤労者の割合は4割を超え、格差の拡大や、親から子への貧困の連鎖、奨学金問題などの社会課題が山積しています。

こうしたなか、生活や雇用に不安を抱えた勤労者にとって、〈ろうきん〉は最後の拠り所であればなりません。勤労者が困ったときにその一番近いところにいる存在でなければなりません。ろうきんの理念、社会的役割をいかに具体的な事業・サービスとして具現化していくか、それが私たち労金業態の進むべき道であり、それがまさに「ろうきんらしさ」を発揮するということだと考えております。

ろうきん業態は、このたび、金融庁の「顧客本位の業務運営に関する原則」をすべて採択することを決定しました。労働金庫連合会は6月19日付で「お客様本位の業務運営に関する方針」を公表し、各金庫においても方針の策定および公表に向けた準備を進めているところです。

〈ろうきん〉は、「非営利」「直接奉仕」「会員平等」の原則に基づき、これまでもお客様本位の事業運営を実施してきました。これからも、お客様である勤労者一人ひとりの生涯にわたり、お客様の立場に立った、良質な商品・サービスを提供してまいります。

〈ろうきん〉として、勤労者にどのように寄り添っていくのか、そのキーワードは、「より長く」「より深く」「より広く」の三つです。

第一に、「より長く」—〈ろうきん〉は、勤労者の生活を生涯にわたってサポートします。勤労者の生活設計へのアドバイスをはじめ、子育てや教育、マイホーム、介護、退職後の資産の管理・活用などそれぞれのライフステージにおけるあらゆる資金ニーズに良質な商品・サービスで応えていきます。

本年 1 月より個人型確定拠出年金（iDeCo）の対象者が拡大されたことを受け、公務員の労働組合を中心に積極的に取り組んだ結果、5 月末時点で約 3 万件を超える申し込みをいただきました。iDeCo に関する説明会や特設 Web サイト、専用コールセンターの開設など、制度の特徴や税制優遇などの情報提供に努めるなど、勤労者の資産形成を支援する取り組みを推進します。

第二に、「より深く」—〈ろうきん〉は、この勤労者との「生涯取引」を核に、会員労働組合との連携を一層強化し、組合員の家計のメイン化や複合的な取引を推進することで、組合員の生活向上を図ります。

併せて、組合員の生活を守る取組みとして、これまで評価をいただいている生活応援運動・多重債務への取組みの成果を活かしつつ、金融教育を通じて、勤労者が暮らしのなかで正しく上手にカードローンをご利用いただけるよう取り組みます。

労働者自主福祉運動の一環として、全国各地の会員や労金推進機構とともに、「ともに運動する主体」として、組合員の生活向上を目指す労金運動を強力に推進してまいります。

第三に、「より広く」—増加する非正規の勤労者としっかり向き合っていくことが、〈ろうきん〉がやらなければならない、〈ろうきん〉だからこそできる役割です。

非正規雇用の多い労働組合と連携しながら、財形貯蓄やエース預金などによる計画的な貯蓄手段の提供や低利な生活資金の融資など、非正規勤労者の生活支援に業態をあげて取り組みます。併せて、中小企業で働く未組織の勤労者に対しては、中小企業勤労者福祉サービスセンターと連携し、〈ろうきん〉のトータルな商品・サービスを活用した福利厚生制度の提案をしてまいります。

また、取引基盤の拡大に向けて、全労済や生協の皆さんとの連携を強化しつつ、それぞれの組合員の皆様に対して、〈ろうきん〉利用の促進を図っていきます。

これら、取り組みを進めていく上で、2014 年 1 月より稼働している業態統一のオンラインシステム「アール・ワンシステム」を最大限活用し、顧客サービスの向上を徹底的に推進します。

既に、昨年 4 月からは、ほぼすべてのコンビニの ATM において 24 時間 365 日預金の引き出しや預け入れが可能となりました。この 8 月からは、インターネットで

投資信託の販売を開始します。わかりやすくして信託報酬の低いもの、ESG（環境・社会・企業統治）を考慮したものなど、約 50 の商品をそろえております。

さらに、スマホによる普通預金口座開設機能の導入も予定しております。今後も勤労者の様々なニーズに応え、チャネルの多様化をはじめ金融インフラの強化を図ってまいります。

さて、昨年 11 月、「協同組合」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

これは、さまざまな社会的な問題に創意工夫あふれる解決策を編み出している協同組合の思想と実践という財産を受け継ぎ発展させていく必要があると国際社会が評価したものです。

〈ろうきん〉は、今回のユネスコ無形文化遺産への登録を誇りに、協同組織の福祉金融機関として、他の非営利・協同セクターとのネットワークを構築し、教育や福祉、環境など地域社会が抱える様々な課題の解決に取り組んでいきます。

中央ろうきんでは、若者応援ファンドを設け、ひきこもりなどの若者を支援している NPO と連携し、若者の自立や就労を応援しています。東海ろうきんでは、NPO バンクと連携し、NPO の組織基盤の強化に取り組んでいます。また、近畿ろうきんでは、預金頂いた方々にご希望の寄付コースを選択いただく「社会貢献預金・すまいる」を通じて、地域の人々と、エコ推進・災害復興支援・子どもたちの未来応援・国際協力を行っている団体活動をつなぐ役割を担っています。

労金連合会では 2010 年に社会的責任投資（SRI）原則を制定し、財務分析に加えて ESG 課題を考慮した投資を行っています。今後は国連責任投資原則（PRI）への署名に向け準備を行うなど、ろうきん業態を代表して社会的責任投資（SRI）の取り組みを一段と進めてまいります。

また、豊かな里山の再生・環境問題に取り組む人材育成を目指して各地域の NPO と協同して活動している「ろうきん森の学校」は、2015 年に「国連生物多様性の 10 年日本委員会」が推奨する連携事業に認定され、さらに昨年 2016 年には、第 5 回いきものにぎわい活動コンテストにおいて「国土緑化推進機構理事長賞」を受賞しました。これまで延べ 15 万人を超える方が参加しています。

一昨年 3 月に労金連合会が支援しました「ふくしま被災地まち物語 東京 7 DAYS」というイベントで演じられた被災地の紙芝居が基になって、1 本のアニメ映画「無念」が誕生しました。原発事故の際の福島県浪江町の人々の様々な無念を広島の方々が描き、浪江町の人々が自ら声優を演じているものです。このアニメ映画「無念」は、全国各地 400 近くの箇所でも自主上映が行われ、この 3 月にはフランスやニューヨークでも上映されました。

今後とも、〈ろうきん〉は、社会に広がる助け合いの輪のなかにしっかりと加わり、その役割を発揮していきます。

〈ろうきん〉は単に、金融商品の量的拡大を図るのではなく、全国約 630 店舗の業態ネットワークを活かしながら、勤労者の多様なニーズを踏まえた質の高い、そして、〈ろうきん〉らしい温もりの感じられる金融サービスを提供していきます。

お客様が「ただ単に、住宅ローンの金利が他の金融機関に比べて低いから〈ろうきん〉の商品を選ぶ」ということではなく、「〈ろうきん〉は生涯にわたって親身になって自分たちの生活を支えてくれる、困ったときにいつも助けてくれる、だから〈ろうきん〉の商品を選ぶのだ」と、さらに言えば、「〈ろうきん〉に預けたお金は、働く仲間のために、世の中のために活かされている、ろうきんの理念やその社会的役割に共感する、応援したい、だから〈ろうきん〉を選ぶのだ」と、そんな〈ろうきん〉を目指さなければならない、そう強く思います。

そしてそのことを貫いていけば、今のまことに厳しい経営環境のもとでも、持続可能なビジネスモデルの構築につながっていく、そう確信しております。

〈ろうきん〉は、この 20 年間、日本チャリティ協会のご協力をいただきながら、障がい者の皆さんが描いた絵を毎年のカレンダーに用いてまいりました。力強くてあたたかな心癒される作品が並びます。本年のカレンダーの表紙には、こんなメッセージを掲載しています。

「ひとりひとりに、扉はいくつもあって。  
ひとつひとつが、夢へと続いていて。  
ひとりでは開かなくても、いっしょならきっと。  
あなたに寄り添う、ろうきんです。」と。

このメッセージの通り、働くひとに常に寄り添い、働く人々の夢と一緒に叶えていく、そんな〈ろうきん〉であり続けたい。そのために、〈ろうきん〉は、取り巻く「変化と多様性」に迅速かつ的確に対応し、リスクを取ることに躊躇せず、果敢に様々な課題に挑戦し、その期待される社会的役割・使命を果たしてまいります。

最後に、ご臨席の皆様の、益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

以上